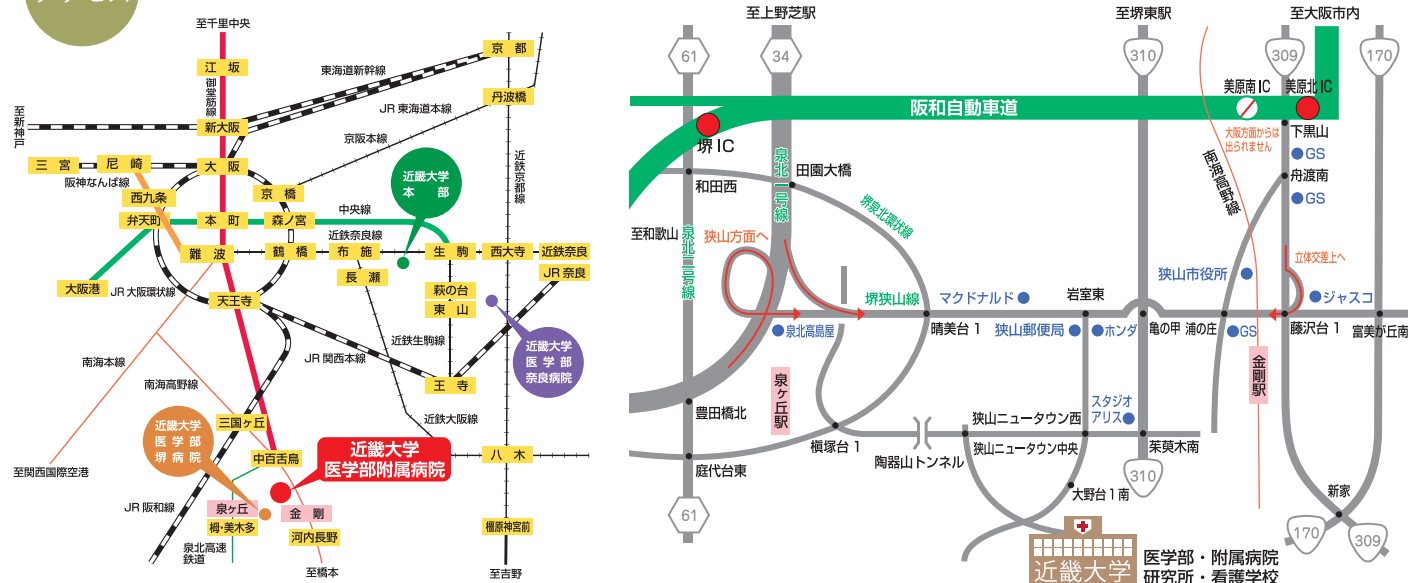
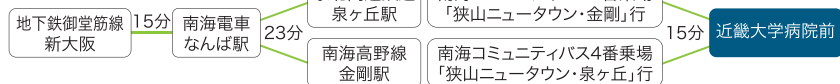


アクセス



電車・バスで
お越しの場合



各診療科のご案内

- 3F** 産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
- 2F** 循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
- 1F** 整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さん 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日(11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)
紹介状をお持ちの患者さん 8時30分～14時00分		

※当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。

※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(税込)をご負担頂きます。

※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

患者さん向け駐車場委託に伴う変更について

2015年4月1日より、駐車場利用方法及び料金が変わりました。当日受診の患者さんは、駐車券を院内へお持ちいただき、2階会計窓口で割引処理を行ってください。精算は屋外(病院棟1階出入口付近)の事前精算機をご利用下さい。ご希望の程何卒よろしくお願い申し上げます。

入場より
最初の
30分
無料

●当日受診の患者さん
入場より 3時間まで 100円
4時間まで 300円
以降60分/100円
当日1日最大料金 1000円

●お見舞いの方・一般の方
入場より 1時間まで 300円
以降60分/200円

平日:±14:00～24:00 日・祝13:00～24:00は最大料金(1000円)が適用されます

編集後記

発行日 平成27年11月1日
発行場所 近畿大学医学部附属病院
編集 広報誌発行委員会 大磯 直毅

近畿大学医学部附属病院広報誌「きずなVol.15」をお届けします。南大阪の地域医療から先進医療まで幅広い診療を展開できる特定機能病院として、皆さまに安心・安全な医療を提供できるよう教職員一同取り組んでいます。

今回から皆さまにご参加いただいたイベントスケジュールの誌面を新設しました。是非、ご参加お願い致します。今後とも皆さまとのつながりを大事にする「きずな」をご愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

きずな

Vol.15
Autumn-Winter

Kinki
University Hospital,
Faculty of Medicine

Kindai Now

近畿大学医学部附属病院(監修・編集)
「近大病院 治す力」発刊!

放射線治療 がん治療を支える最新の放射線治療

脳卒中センター SCU 「脳卒中」

心臓血管センター 「心臓病」

がんセンター

「がんと向き合う」



近畿大学医学部附属病院

Kindai Now

「近大病院 治す力」
発刊

- 監修・編集：近畿大学医学部附属病院
- 出版：株式会社バリューメディカル
- ページ数：272ページ（オールカラー）
- 価格：1,800円（税別）



《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

Contents

Kindai Now 「近大病院 治す力」発刊	P.1
病院長メッセージ	P.2
特集 放射線治療	P.3～P.4
特集 脳卒中センター SCU	P.5
特集 心臓血管センター	P.6
特集 がんセンター「がんと向き合う」	P.7～P.8
診療科紹介 麻酔科	P.9
研究室紹介 Who's who 薬理学	P.10

Face of the hospital 看護部	P.11
Face of the hospital 薬剤部	P.12
Face of the hospital 感染対策室	P.13
つながる近畿大学 文学学部	P.14
卒業生の今	P.15
連携病院 つなぐ 和泉市立病院	P.16
イベントスケジュール	P.17
患者支援センター	P.18

病院長メッセージ

読みやすく・分かりやすい
安心して受診していただくための本です

この度、『近大病院 治す力』という近畿大学医学部附属病院の書籍を発刊しました。当院と医学部堺病院が行う先進医療や研究、さらにさまざまな疾患に対してどのような治療を行っているのか紹介する内容となっています。

今回『近大病院 治す力』を出版した大きな目的は、当院がどんな治療を行っているのかを、患者さんや地域の方々に知っていただくためです。また、南大阪エリアの医療施設の方々にも当院の取り組みを知っていただき、地域医療の充実につなげることも目的のひとつとしています。

これらの情報は、これまでホームページなどで断片的に紹介していたのですが、病院全体の取り組みを1冊の本にまとめたことで、より分かりやすくなったと思います。より多くの方にアピールするのであれば、インターネットを活用した方が効果的だったのかもしれませんが、しかし、「いろいろな世代の方に読んでいただきたい」「日々の生活の中で気軽に読んで活用していただきたい」という想いがあり、本という媒体をまずは選びました。

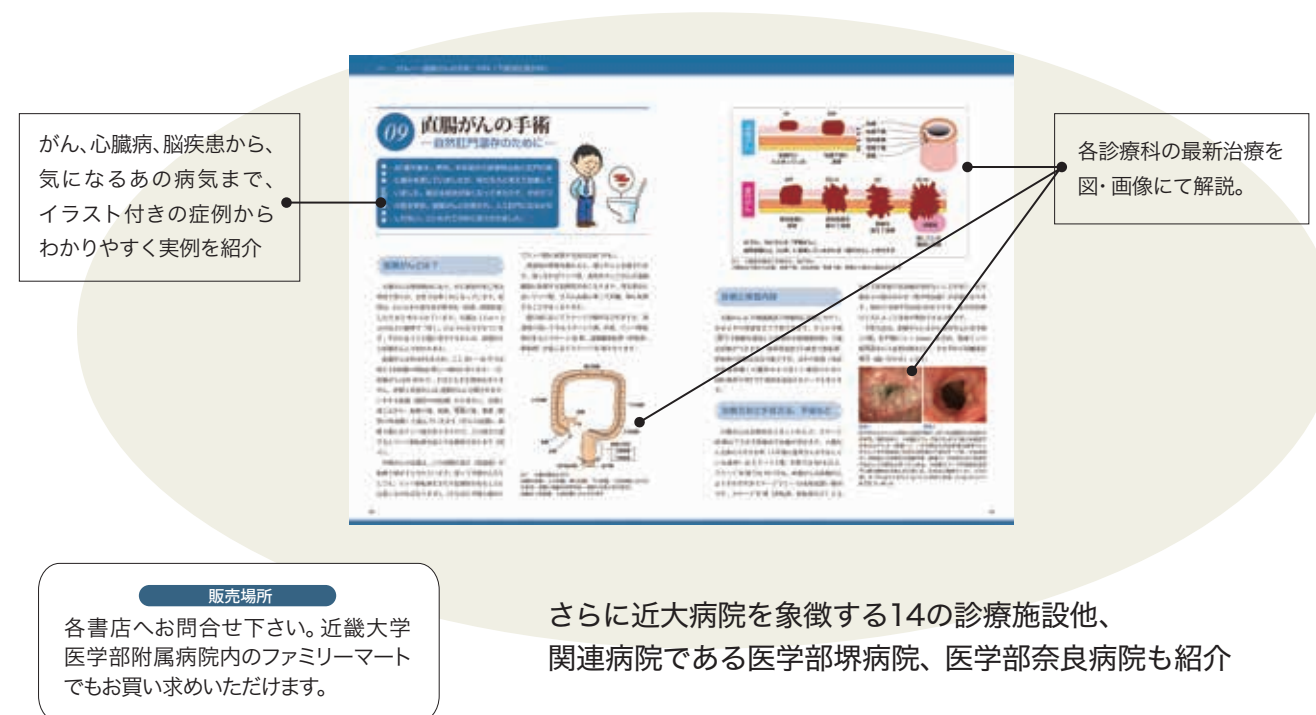


病院長 奥野 清隆

医療の本というと、「むずかしい」というイメージを持たれているのではないのでしょうか？例えば、診療科や疾患別に解説されていても、自分が知りたい情報がどれに当てはまるのかは分かりにくいものです。

そこで『近大病院 治す力』では、症状や患者さんからの質問を切り口にして、考えられる原因や対処法、治療について解説する構成にしました。このように身近な内容にすることで、関心を持っていただき、暮らしに役立てていただけたらと考えています。

当院は、研究・臨床共に世界的なレベルの技術と環境を整えていると自負しています。そして2023年に予定している新病院開設に向けて、さらにレベルアップに努めてまいります。病院といえば、足取りが重くなる場所だと思います。私たちが目指すのは、少しでもその距離を縮め、患者さんに近い病院であることです。今回の本が、そのきっかけのひとつになることを期待しています。





2015年9月に導入された最新型放射線治療装置リニアック「True Beam」

がん治療を支える、最新の放射線治療

みなさんは放射線治療に対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

放射線治療について知る機会がなく、何となく「怖い」と感じている方も少なくないでしょう。しかし実際は、がん治療において手術・化学療法と並ぶ治療法で、近年、その重要度は高まっています。本特集では、放射線治療の基本知識と、最新型の放射線治療装置「リニアック」についてご紹介します。

知っておきたい放射線治療の基本知識

放射線治療の目的は、主に3つあります。1つは、がんの治癒・完治を目指す根治照射です。これまで根治を目的とした治療は手術がメインでしたが、現在は頭頸部がん・食道がん・肺がん・皮膚がんなどでは、放射線治療を行うケースが増えています。大きな理由は、切らずに治せるので臓器の形態や機能を残せるためです。これは、放射線治療の最大のメリットといえます。また、手術で切除できないほど進行したがんでも、遠隔転移（最初に発生したがん細胞が血管やリンパ管に入り、さまざまな器官・臓器に広がること）がなければ、放射線治療ができる場合もあります。

2つ目の目的は、再発や転移のリスクを下げる予防照射です。例えば、乳がんの治療では手術後の放射線治療が併用されている他、再発率の高い



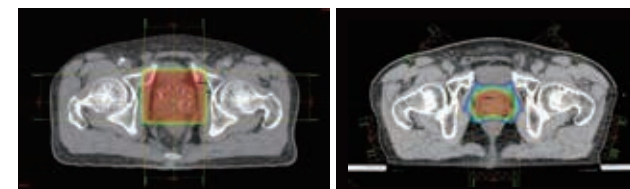
直腸がんでは手術前に照射します。このように放射線治療は独立した治療法ではなく、手術や化学療法と併用することで、治療効果を高めています。

3つ目の目的は、緩和照射です。完治が望めない場合、がんを小さくして症状を改善し、進行をおさえます。薬物治療が痛みを感じないようにするのに対して、放射線治療はがん自体を小さくして痛みを軽減するので、効果が長く続く傾向があります。骨転移では、痛みだけでなく骨折の予防にも有効です。

このような効果やメリットがある反面、疲労・食欲低下・貧血・皮膚炎などの合併症を起こす場合があります。しかし近年は技術の進歩によって、合併症の症状は大幅に軽減しています。

治療効果アップが期待される最新型「リニアック」を導入

放射線治療ではX線や電子線を発生させて照射する、「リニアック」とよばれる装置が使用され、当院では最新の設備を備えています。リニアックの大きな特長は、「強度変調放射線治療（IMRT）」といわれる照射法を行えることです。これは、1本のビームの中で線量に強弱をつけ、それを多方面からあてる方法で、複雑ながんの形に合わせて照射することができます。この技術によって、これまでむずかしかった前立腺がんの効果的な治療が可能となりました。



従来照射法による線量分布例

強度変調放射線治療（IMRT）による線量分布

ピンポイント照射とよばれる「定位放射線治療」も特性のひとつです。放射線を多方向から数ミリ単位の範囲に集中させ、大線量を短期間で照射します。

当院が導入している最新型のリニアックは、「画像誘導放射線治療（IGRT）」を行うことができます。治療直前または治療中に撮影した画像情報をもとに、わずかな位置のズレを修正し、より正確な照射が可能です。精度の高い照射をすることで、合併症の軽減にもつながります。治療時間も短くなり、照射時間は約1分間、治療室に入ってから出るまででも10分程度しかかかりません。痛みや熱さを感じることもないので安心です。

放射線治療は、専門性とチーム医療が大切な部門です。当院では、放射線治療専門医・放射線治療専門放射線技師・医学物理士・専従の看護師などが連携して、国内トップレベルの治療・ケアを提供できるよう努めています。

※ リニアックによる治療は、保険適用となっています。



放射線治療の流れ

1. 診 察

放射線治療の専門医による診察を受けていただき、治療方針を決定します。そして治療内容や効果、スケジュール、想定される合併症などについて分かりやすく説明します。

2. 治療計画用 CT 画像撮影・固定装具作成

放射線治療の計画を作成するためにCT画像を撮影します。正確に照射するため、治療中に体が動かないようにする固定具を作成する場合があります。位置を合わせるために体に印をつけますので、治療が終わるまで消さないでください。

3. 治療計画作成

CT画像をもとに、どの部位に・どの方向から・どのくらいの線量を照射するかなどを検討します。できる限り正常組織への照射を避け、治療効果を上げると共に、合併症の軽減を図ります。

4. 治 療

治療は、CT画像を撮影した時と同じ体位で行います。診療放射線技師が印をもとに体位の調整をし、照射します。照射する時間は数分間です。必要に応じて、X線検査・血液検査・合併症に対する治療を行う場合があります。

5. 経 過 観 察

治療の効果と合併症を調べるために、専門医の診察を定期的に受けていただく必要があります。治療期間中は体調に気を配り、無理をしないよう心がけましょう。外部照射の場合、放射線が体内に残ることはないため、周囲への影響はありません。



脳卒中センターSCU

脳卒中から身を守るために

日本において、死因の第4位とされる脳卒中。患者数は150万人に上り、毎年30万人以上の方が新たに発症しているといわれています。南大阪エリアにおいても高齢化の影響で、脳卒中の患者さんが増えています。当院はこのような状況に対応するため、脳卒中急性期に特化した高度な治療を行う脳卒中センターSCU（Stroke Care Unit）を設け、多職種のスタッフが力を合わせて患者さんの命を守り、後遺症を軽減できるよう努めています。

こんな時は要注意！！

- F (Face)** …顔の片方がゆがむ。口元が左右で異なる下がり方をしている。
- A (Arm)** …両手を上げて片方が下がる。片方の腕に力が入らなくなるのも脳卒中のサイン。
- S (Speech)** …ろれつが回らない。言いたいことが言えない。
- T (Time)** …上記の症状があれば、すぐ病院へ。脳卒中治療は時間との戦い。

脳卒中って、どんな病気？

脳卒中にはいくつかの種類があり、大きくは脳の血管が詰まる「脳梗塞」と、脳の血管が破れる「脳出血」や「クモ膜下赤出血」に分けられます。高血圧や糖尿病などの生活習慣病、心房細動が主な原因として挙げられ、寝たきりになるなど重症化することが多いことが特徴です。

重症化を防ぐためには、一刻もはや高度な治療を行える医療施設で治療を受けることが大切です。そのためのキーワードになっているのが“ACT FAST（急いで行動して）”です。

脳梗塞であれば、発症から4.5時間以内にt-PA治療を開始する必要があるとされています。

当院のSCUは、高度な診断と治療、手術を24時間行い、シームレスに適切なリハビリテーションを始める体制を整えています。これらの環境を最大限に発揮するためにも、「脳がおかしい」と感じたら、すぐに救急車を呼んでください。

また当院では、脳卒中の予防と、発症時に正しい対応をしていただくため、一般の市民への啓発活動にも取り組んでいます。

冬場に注意すること

冬は、脳出血の患者さんが多く、重症化する傾向があります。主な原因は、急激な血圧の上昇。入浴時、トイレ、外出時・帰宅時の温度の変化に気をつけましょう。また、日ごろから規則正しい生活とかかりつけ医の診察を心がけることも予防のポイントです。



冬場に注意すること

冬は急激な血圧の変化によって狭心症や心不全を起こす危険性が高まります。脳卒中の場合と同じく、入浴時の更衣室から浴室への移動、外出時・在宅時の温度の変化に気をつけましょう。

心臓血管センター

心臓病の予防と正しい対処法

3大疾病のひとつである「急性心筋梗塞」を含む心臓・循環器系の疾患は、増加傾向にある最も注意すべき疾患のひとつです。当院では2011年に循環器内科と心臓血管外科が一体化した心臓血管センターを開設。2013年には救急災害センターへと移り、緊急・重症の患者さんに対して今まで以上に質の高い医療を提供できる体制を整えています。

心臓病って、どんな病気？

心臓・循環器に関する疾患では近年、「心筋梗塞」や「狭心症」などの冠動脈疾患、重症の「心不全」、大動脈疾患の患者さんが増えています。主な原因は高齢化と生活習慣の変化だと考えられます。肥満や高血圧が進むと発症のリスクが高くなるので、毎日の生活習慣に気をつけることが大切です。また、糖尿病を発症している方も注意が必要です。ちなみに日本人の肥満率は、男性：28.6%、女性20.3%。高血圧の人は約4000万人ともいわれています。つまり、誰もが人ごとではすまされない問題といえるでしょう。（厚生労働省調べ）

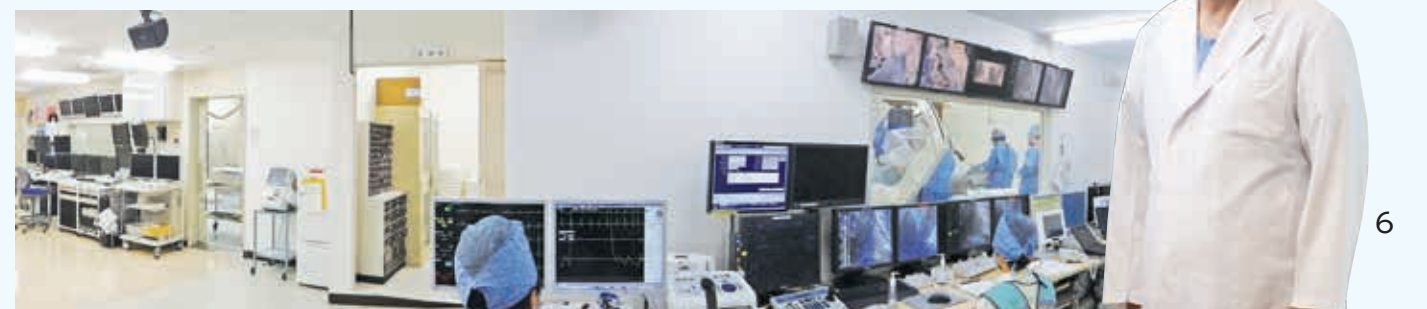
最も有効な予防策として挙げられるのが、食生活の改善です。日頃からカロリーと塩分をおさえた食事を心がけるようにしましょう。適度な運動と禁煙も予防につながります。これまでに心臓・循環器系の疾患を発症した人が再発した場合、重症化するケースが多いので、できる限り実践するようにしてください。

こんな時は要注意！

体を動かした時に胸に圧迫感や痛みを感じる方は、心筋梗塞や不安狭心症を発症する可能性があるため、医療施設で診察を受けることをおすすめします。じっとしていても圧迫感や痛みを感じる場合は、当院をはじめとする高度な治療を行うことができる病院へ行きましょう。万が一発症した場合、30分以内に治療を行えば、大半は命を救うことができます。心臓血管センターでは迅速・適切な治療を行う体制を整えていますので、一刻も早く来院してください。

手術などの治療を受けて治っても、再発のリスクがなくなったわけではありません。退院したことで完治したと勘違いをして、処方されている薬を飲まない患者さんがいらっしゃいます。再発リスクをおさえるためには、体質を改善する薬物治療が有効ですので、必ず医師の指示に従い、継続するようにしましょう。

センター長
宮崎 俊一

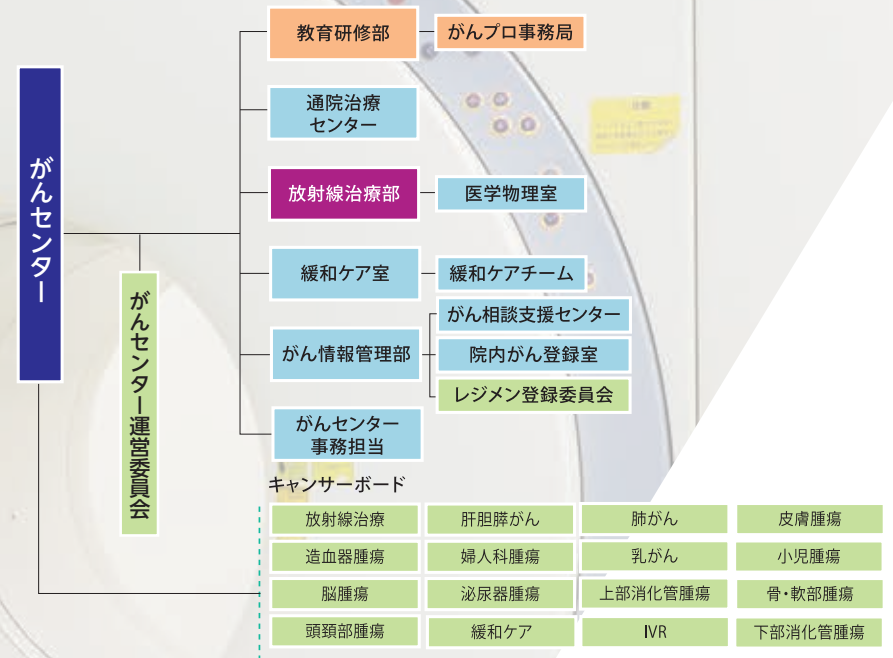


がんセンター「がんと向き合う」

質の高いがんの治療とケアを提供するために

当院は“質の高い、がんの治療とケアを提供するために”を目指して、2007年に「近畿大学医学部附属病院がんセンター」を開設しました。センター内に通院治療センター、放射線治療部、緩和ケア室、がん相談支援センターを設置し、質の高いがん医療のご提供はもちろんのこと、地域の医療機関や住民の方々への情報発信、すぐれたがん専門医の育成に取り組んでいます。

■ がんセンター組織図



活動レポート

第7回近畿大学P E A C E緩和ケア研修会を開催しました

がんは身体的な苦痛だけでなく、精神的な苦痛、家族や仕事上の問題など社会的な苦痛を伴うケースが多いため、近年はこれらの問題を支援する「緩和ケア」が重要になっています。

地域がん診療連携拠点病院に指定されている当院では、医師を対象にした「近畿大学P E A C E 緩和ケア研修会」を継続的に行っており、2 日間にわたり第7 回研修会を開催いたしました。



医師達が患者さんになり、患者さんの気持ちを疑似体験する
ロールプレイを実施。



観察者からのフィードバックに真剣に聞き入る参加者たち

放射線治療部

さまざまな職種の専門スタッフが
連携して、最適な治療・ケアを行う
チーム医療に取り組んでいます。

国内では、放射線治療を受ける患者さんの数は欧米諸国に比べて少ないものの、近年は増加傾向にあります。1995 年と 2009 年を比較すると 2.5 倍に増えています。現在は手術・化学療法と並ぶ、がん治療における 3 本柱のひとつで集学的治療としても大きな役割を担っています。

当院でも多くの患者さんが放射線治療を受けており、「強度変調放射線治療 (IMRT)」を受ける方が増えています。当院が導入しているリニアックは、IGRTを行うことができ、患者さんへの負担軽減と、より精度の高い治療を行うことが可能です。



このような最新の技術の活用により、治療中・後の副作用の軽減につながっています。しかし、副作用をゼロにすることはむずかしいのが現状であり、より最小にするため放射線治療部では、最新の技術以外にさまざまな職種の専門スタッフが連携して、最適な治療・ケアを行うチーム医療に取り組んでいます。その中で看護師は治療前に、必ず患者さんご家族にご参加いただくオリ

管理栄養士が提案するがん患者さんのための食事と工夫

放射線治療をされている多くの患者さんが、食事に対してのお悩みを体験されておられます。放射線治療は、照射することでがん細胞を攻撃する治療法ですが、一方で放射線が当たっている範囲の正常な細胞では有害事象として現れ、吐き気や味覚変化、口内炎、唾液分泌障害、嚥下困難、下痢など食欲の低下につながることもあります。そのような副作用に対して、適切な対応をおこなうことで重症化を防げることもあります。当院では食形態の調整や味覚変化に合わせた食事の提供などさせていただきます。患者さんの栄養状態を維持できるように取り組んでいます。



● かぼちゃのポタージュ

材料 (1 人前)

かぼちゃ 80g、牛乳 30ml、水 30ml、
コンソメ 1g、塩 少々

まろやかな口当たりで野菜がたくさんとれます。味覚変化があるときや、においの気になるときは冷たく冷やすとよいでしょう。

栄 養 士 か ら の お す す め

味付けごはん、または雑炊など

主食に味をつけることによって食べやすくなることもあります。ふりかけや梅干し、佃煮などを使用するのもよいでしょう。



ちらし寿司

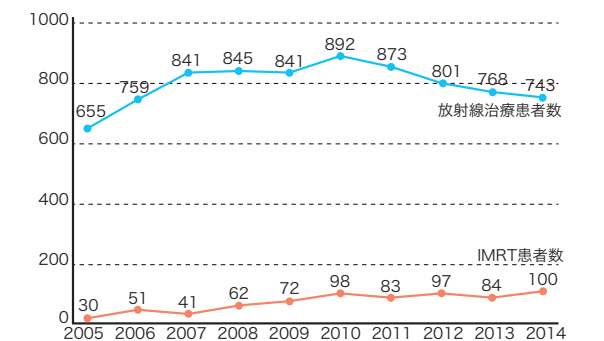
エンターションの他、治療中、治療終了時の面談も実施しています。面談などを通して、できる限り安心して治療を受けていただけるように治療方針や治療内容などの理解に向けた関わりと副作用の軽減や早期回復、患者さんの生活の質（QOL）の維持・向上に努めてケアを行っています。その他にも、管理栄養士による栄養相談への調整やがん相談などの各種支援制度を活用していただくための調整も行っています。

私たち放射線治療部は、患者さんご家族が、がんに向き合って治療・ケアを受けながらその人らしい生活ができるように全力でサポートしていきます。



オリエンテーションルーム

年度別放射線治療患者数：
外部照射、小線源治療(子宮頸がん、前立腺がん)



麻 酔 科

安全で患者さんの負担の少ない治療を行う麻酔管理を実施

麻酔科は手術での麻酔管理を中心に、集中治療医学や痛みを和らげるペインクリニックも積極的に行っています。私たちの活動のキーワードとなるのが、“全身管理と疼痛管理”。患者さんに、安全に、できる限り痛みを感じることなく治療を受けていただけるよう取り組んでいます。

その他にも、高血糖になった時に細胞障害を起こすメカニズムを解明する基礎研究や、麻酔薬が心電図の変化に及ぼす影響についての臨床研究などを行っています。

手術時に麻酔をすると、意識のうえでは痛みは感じませんが、患部を切除したり麻酔で呼吸を止めたりするため、体には負担がかかります。以前の医学では、いかに安全に手術を行うかという視点しかありませんでしたが、麻酔技術と知識の進歩に伴い、いかに普段と変わらない状態で手術を受けていただくかという、恒常性の維持も重要視されるようになってきました。恒常性を高めることで術後の合併症のリスクをおさえ、早期回復にもつながるため、当院においても力を入れています。

丁寧な説明をすることで安心度と治療効果をアップ

当院の強みは、優れた知識と技術をもったスタッフが連携して取り組んでいることです。「なぜ、その治療を行うのか」「より良い治療法はないか」を考えるには、科学的根拠がなければいけません。当院では外科医師や麻酔科医をはじめ、看護師・薬剤師・臨床工学技士などがそれぞれの専門性を発揮して、ベストな医療を行うチーム医療を展開しています。

さらに、患者さんが麻酔について理解されていることが回復にも影響することが明らかになっており、当院では術前外来を実施して、映像を交えながら説明しています。

もちろん手術での麻酔だけでなく、慢性の痛みの緩和にも取り組み、患者さんのQOLの向上をサポートしています。このように麻酔科は“縁の下の力持ち”として、患者さん安全・安心の医療を支えています。

麻酔科 教授
中尾 慎一



Who's Who

薬 理 学

薬理学の土台となっているのは 患者さんに寄り添う姿勢

薬理学は、疾患の原因を探求し、薬物の体への作用を分子・細胞・個体レベルで研究する分野です。そして、それらの理論や技術を用いて、より安全で治療効果の高い薬をつくる活動もしています。

薬理学の歴史は長く、明治時代に大学の医学部がつくられた際、外科や内科と共に設けられました。当時は処方学と呼ばれ、臨床で患者さんに薬を処方する役割を担っていました。その背景には、地域や施設によって薬が十分になく、専門知識をもった者が患者さんの状態に合った薬を処方しなければならないという環境がありました。

時代の移り変わりに伴い、研究や創薬に重点を置いた現在の薬理学へと変わってきましたが、今でも“疾患から患者さんを守る”という、患者さんに寄り添う姿勢は受け継がれています。



医学部薬理学教室
教授
高橋 英夫



世界でも先進的な ヒトにやさしい薬の開発を目指して

私たちの研究グループの特長は、世界でも先進的な研究と創薬を手がけることができるスタッフと設備を備えていることです。例えば、疾患にかかる時、卵の殻が割れると中身があふれ出すように、細胞の外側がこわれて中の物質が出しまい、体に悪影響を及ぼすメカニズムを解明しました。

毎日の活動で心がけているのは、「患者さんと医師にとって使いやすい薬をつくること」です。それは、安全で副作用の少ない薬でもあります。この一環として現在、副作用の少ないヒトにやさしい薬の開発に取り組んでいます。これまでの薬は、ヒトの免疫機能を薬によってコントロールする考えに基づいてつくられてきました。それに対して私たちが目指しているのは、ヒトが本来持っている自然治癒力を活性化させて、改善・回復につなげる薬です。

このような先進的な研究ができるのは、近畿大学医学部と附属病院がこれまで培ってきたベースがあるからこそ、です。自然治癒力を活性化させる薬の研究も、近畿大学でなければできなかったでしょう。こうした歴史を受け継いだ私たちの研究と創薬が、多くの方の健康に役立てられるよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。

Face of
the hospital

看護部

内分泌・代謝・糖尿病内科、
呼吸器・アレルギー内科の混合病棟「47病棟」

内分泌・代謝・糖尿病内科と呼吸器・アレルギー内科の混合病棟です。

甲状腺疾患や糖尿病、肺炎や慢性閉塞性肺疾患の急性増悪の患者さんが多く入院され、インスリン療法、在宅酸素など新たな治療を受ける患者さんや慢性疾患の急性増悪時に生命維持や苦痛や不安の軽減のための医療や看護を行っています。

他職種の方々とカンファレンスを定期的 to 実施し、日常生活指導などを患者さんだけでなく、患者さんを支えるご家族も含めた指導をさまざまな職種と連携し行っています。

看護長からのあいさつ

医師や他職種の方々と話し合う機会をもち、いろんな視点からの意見も取り入れ、患者さん・ご家族の思いを聴くことを大切にして、看護を提供し、慢性疾患を抱えながらも日常生活がスムーズに過ごせるように支援できる看護師を育成したいと考えています。

看護長 松林輝代子



専門・認定看護師のご紹介

糖尿病看護認定看護師

糖尿病とともに生きる患者さんが、その人らしく生きられるようにサポート

糖尿病とともに生きる患者さんやご家族・ご友人が治療をしながらその人らしく生きることをサポートする役割を担っています。

糖尿病は、生活そのものが治療につながるため、続けていくことへのむずかしさや合併症への不安を抱かれている患者さんが多いです。

そんなむずかしさや不安を感じた時、どんな些細なことでも私たち看護師にお話しください。患者さんが笑顔で治療に取り組めるようにサポートしていきたいと思ひます

47病棟主任 久城恵理

Face of
the hospital

薬剤部

薬を適正に使用するために
～薬剤師による眼科オリエンテーションについて～

今回は病棟での薬剤師の業務の一つとして眼科手術を受けられる患者さんへの支援を紹介いたします。

眼科手術後の合併症を防ぐために、
オリエンテーションを行っています。

当院で眼科手術を受けられる患者さんには複数の目薬と抗菌薬が処方されます。ほとんどの患者さんは手術の翌日に退院されますので、眼内炎などの手術後の合併症を防ぐためには、ご自宅での患者さんご自身による複数の目薬の適正な使用が必要となります。そのため、薬剤師が目薬の種類と使用目的、使用回数、タイミング、正しい点眼方法、目薬の保管方法などについて、患者さんの視点からオリエンテーションを行っています。

オリエンテーション後も、
正しい目薬の使用を理解されているか支援します。

オリエンテーションの後には、患者さんが正しく理解されているか、ご不明な点がないかお一人おひとりと確認を行っています。

さらに、医師や看護師と協力し、必要に応じて患者さんが正しく目薬を点眼できるよう入院中から支援しています。

眼科手術で入院される患者さんへ。

オリエンテーションは患者さんが入院された当日、75病棟のカンファレンスルームにて開催しております。分からないことや不安なことがある患者さんは遠慮なくご相談ください。

(文責：伊藤由梨)



Face of
the hospital

感染対策室

専門のスタッフが中心となったチーム「ICT」が
院内感染対策活動に従事しています。

近年、さまざまな感染症や各種の薬剤耐性菌が出現し、医療関連感染はメディアで取り上げられることが多くなりました。また、患者さんの高齢化、医療の高度化に伴い、感染症が発生するリスクが高まり、感染拡大を招く恐れもあることから医療機関において感染対策は重要であると言われています。

当院では、ICT（感染対策チーム）が院内感染対策活動を実践的に遂行しています。ICTは、感染制御医師、感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師などの専門職種が集まり、横断的に病院全体の感染対策活動に従事しています。

ICTの活動として、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使

用状況等の確認を毎日ミーティングしています。また、ICTラウンドを実施し、院内を巡回して感染防止対策の実施状況の把握、指導を行っています。感染対策上の問題に対し迅速に対応できるような体制を確保しています。

感染対策の分野は日々進歩しているため、最新の知識や情報を密に収集し、感染対策活動を実践する必要があります。そのため、職員の教育として感染制御セミナーを年間10回以上開催し、感染対策、感染症治療に対する知識向上を図っています。また、感染対策の基本となる手指衛生に対しては、毎年手洗いキャンペーンを実施しています。

安心して安全な医療を提供するために、
患者さんにもご協力を。

感染対策は、病院に勤務する職員だけではなく、患者さんやご家族、患者さんの周りの方々すべてに対し、安心して安全な医療を提供するために行います。

感染対策として、呼吸器衛生・咳エチケットという予防策があります。これは、厚生労働省が提唱している感染予防策のひとつです。マスクをせずに咳、くしゃみをするとうイルスが2m～3m飛ぶと言われ

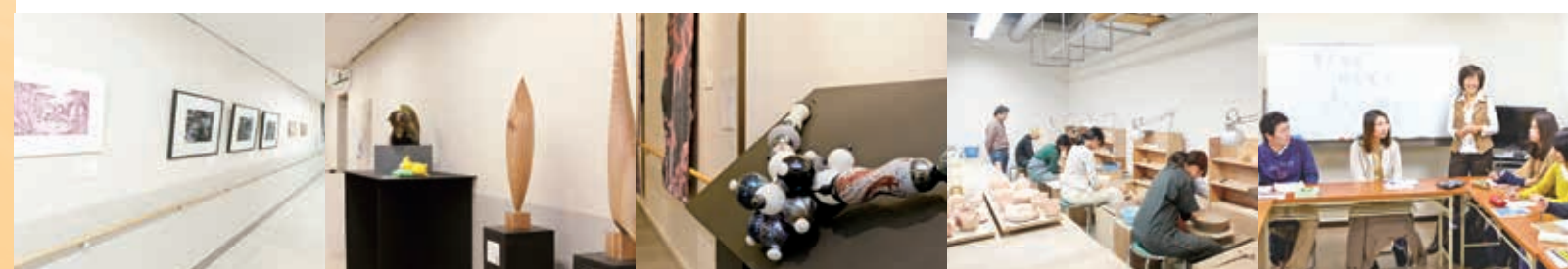
ています。そのことで2～3m以内にいる方が感染を受ける可能性があるということです。

そのため、呼吸器症状がある患者さんは、マスクを着用する、マスクのない場合はティッシュなどで押さえる、使用したティッシュはすぐにゴミ箱に捨てる、ティッシュで触れた手は手洗いをするなどの感染予防策にご協力をお願い致します。

(文責:感染管理認定看護師 三五 裕子)

つがる
な
近畿大学

文芸学部



学生作品を病院に展示したホスピタルアート

芸術のもつ力と
社会を繋ぐ人材を育成する、
新学科が誕生します。

2016年4月から文芸学部新しい学科が開設されます。「文化デザイン学科」という新しい学問領域で、芸術のもつ力を社会に繋げるための人材を育成する学科です。

社会の中には、もちろん病院も含まれています。芸術とは健康で経済的なゆとりのある人たちが享受するべきものではなく、むしろ心身共に弱った時にこそ、人々の心に潤いをもたらすような芸術が必要とされるのではないのでしょうか？

文芸学部では、すでにここ数年にわたり「HARTプロジェクト」という、病院に絵画や彫刻、演劇に至るまでの様々なアートをお届けしてきましたが、来年からは新学科の教員や学生たちが総力を挙げて、さらにグレードアップした、皆さまの心に寄り添えるようなアートの数々をお届けする予定です。

医学部から芸術学部までを擁する近畿大学ならではの、新たな挑戦です。

Faculty of Literature, Arts and
Cultural Studies

文芸学部文化デザイン学科
(平成28年4月開設)
教授 森口 ゆたか



大橋 秀行 先生



私は昭和63年に近畿大学医学部を卒業した9期の大橋秀行です。学生時代には卓球部に属し6年間ピン球を追いかけてました。医師になってからは、一生眼球を追究する覚悟で眼科学教室に入局致しました。

2年間の研修後、大学院に進学し角膜上皮の創傷治癒に関する分子生物学的研究を行い学位を取得し、母校と関連病院に勤務し、平成12年2月に母校から約3Kmの立地にある南海千代田駅前に医院を開業致しました。

難治症例や緊急手術を要する症例に出身の医局である眼科学教室が診療時間外でも迅速に対応して頂けるので大変感謝しております。また眼科は、脳神経外科、内科、皮膚科など他科との関連疾患が多く、母校がいつもサポートして頂けるので大変心強く思っております。最近は「近畿大学の先生だから受診しました」という患者さんも増加し本当にうれしく思います。

これからも母校にはいろいろとお世話になることと存じますが何卒よろしくお願い致します。

大橋眼科

〒586-0009
大阪府河内長野市木戸西町 2-1-26
小澤ビル 1F
TEL 0721-50-0055

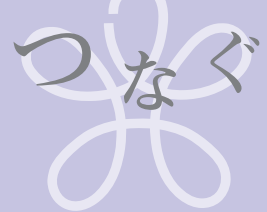


診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前(9:00~12:30)	●	●	●	●	●	●	×	×
午後(16:30~19:00)	●	●	●	×	●	×	×	×



連携病院

Cooperation hospital



当院に受診いただいている患者さんの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。また専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、継続して入院が必要であれば病状に応じた医療機関に転院していただいています。

患者さんに本当に必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるように緊密な連携を行っています。



和泉市立病院

〒594-0071
大阪府和泉市府中町4-10-10
TEL 0725-41-1331 (代表)
<https://izumi.tokushukai.or.jp/>



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に努めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

これらを理念と特色とし和泉市立病院は、昭和38年に発足して以来52年間、和泉市を中心に泉州北部の中核病院として診療科数19科と病床数307床を備え、曜日に制限はございますが、内科、外科、整形外科の救急医療や泉州地域の輪番制による小児救急を実施し、地域の健康、医療を支えてこられました。

高度な先進医療をめざして設備の充実をはかり、各分野の専門医を揃え、悪性腫瘍、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器肝臓疾患、消化器外科疾患、脊椎・関節疾患、脳血管疾患、泌尿器疾患、婦人科疾患、皮膚疾患、そして小児疾患などの治療に全診療科をあげて取り組んでおられます。

予防医学の面でも人間ドッグ、予防接種をはじめ各種健診を行い、さらに病院に来られた市民の方に簡単に血液検査が出来るミニ健診を実施するなど地域の皆さま方のニーズにも応えられています。

平成26年には和泉市立病院から78名の患者さんを当院にご紹介頂きました。

また当院からは92名の患者さんを受け入れて頂き、当院を始め他の病院・診療所・医院との連携を軸とした紹介診療も行い、総合病院として地域医療に貢献されています。



和泉市立病院からのメッセージ

近畿大学医学部附属病院とは、以前から医師派遣や患者さんの紹介などで密に連携してまいりました。特に、腫瘍内科、緩和ケアを主とするがんセンターの運営には絶大な協力を頂いております。

現在、近畿大学医学部附属病院から常勤で医師を派遣していただいているのは腫瘍内科と麻酔科ですが、これからは、平成30年の新病院開設に向けて、当院を近畿大学医学部附属病院の連携基幹病院として位置付けていただき、現在不足する診療科の充実に向けて更なる協力関係を築いていきたいと考えております。近畿大学医学部附属病院の連携基幹病院として位置付けられることで南大阪地域での医療包括に向けて高度で安全な診療体制がより充実されていくものと考えております。

当院では、近畿大学医学部附属病院を始め、他の医療機関や在宅医療との連携を深めながら、多職種が共同して患者さん中心のチーム医療を実践し、地域医療に貢献していく所存です。今後とも和泉市立病院を宜しくお願い致します。

第8回 市民公開講座

1/30
(土)

開催場所 近畿大学医学部
円形棟大講堂

時間 13:30～16:30
(13:00開場)

テーマ 「ここまで進んだがん治療」

現在がんと闘っている患者さんやそのご家族、地域の皆さんががんに対する正しい知識を学んで頂く場として開催しております。本講座も本年で8回目を迎えます。

第1部は「ここまで進んだがん治療」と題し、緩和ケア、乳がん、前立腺がん、放射線治療の各分野の専門家によって最新の情報をお伝えしたいと思います。

特別講演では肺がん闘病中でありながらも湘南ベルマーレでプロフットサル選手として活躍されている、久光重貴氏に講演をお願いしております。また、和歌山県立医科大学教授の山本信之先生には最近大きな注目を集めている免疫チェックポイント阻害剤によるがん治療についてのお話を伺う予定としております。

皆さんの奮ってのご参加をお待ちしております。

【第一部】

各分野からの専門医による講演
(緩和ケア・乳がん・前立腺がん・放射線治療)

【特別講演】

●湘南ベルマーレフットサルクラブ
久光 重貴 選手



フットサルの全国リーグの湘南ベルマーレ選手。高校卒業後、サッカーからフットサルに転向。2008年から湘南ベルマーレに所属。2009年に日本代表に選出、2010年にはチームキャプテンを務める。2013年7月、右上葉肺腺がんステージⅢBが発覚。抗がん剤治療を続けながら、2014年2月に選手として復帰。フットサルリボン活動を立ち上げ、現在全国各地の小児病棟を慰問。肺がん医療向上委員会広報大使。

●和歌山医科大学附属病院
内科医科第三講座 教授
山本 信之 氏



対 象	一般市民の皆様 先着500名
参 加 費	無料 (お車でお越しの方は、受付時に無料駐車券を発券いたします)
申 込 方 法	申込み不要(直接会場にお越しください)
お 問 合 せ	近畿大学医学部附属病院 がんセンター担当 TEL: 072-366-0221(内線5192)

第27回 市民公開講座

2/20
(土)

開催場所 近畿大学医学部
円形棟大講堂

時間 13:00～15:00

地域住民の皆さんや患者さん、ご家族様に向けた本講座は本年で27回目を迎えます。患者さんからお問合せの多い、手のしびれや神経麻痺について、専門医がわかりやすく解説します。是非、この機会にお気軽にご参加ください。

リボンの会

開催場所 病院 PET 棟 3 階 大会議室

時間 14:00～15:00

参加費 無料

申込方法 申込み不要(直接会場にお越しください)

「リボンの会」とは、がん腫を問わず、色々な思いや悩みを語りあう会です。がんの患者さんはもちろん、ご家族・知人の方などでもお気軽にお越しください。さらに、リボンの会終了後には「患者サロン」を開催しています。参加者中心の体験を共有する会としてしますので、こちらも是非ご参加ください。



1/28
(木)

テーマ 肝臓がんの治療と生活

●消化器内科 上嶋 一臣 医師

2/25
(木)

テーマ 「がんの放射線治療ってどんなもの？」

●医学物理士 門前 一 医師

テーマ 「放射線治療中の生活について」

●放射線治療部看護師 藤山 たまき

3/24
(木)

テーマ 「抗がん剤内服治療と副作用-TS1について」

●腫瘍内科 鶴谷 純司 医師

テーマ 「抗がん剤内服治療による副作用と生活について」

●薬剤師

《第2部 患者サロンのご案内》

患者・家族のみなさんによる語りを中心とした会です。がん体験者ピアサポーター山崎さんに支援して頂いています。気兼ねなくお話ししたい方、お気軽にお越しください。

時 間	15:00～16:00
場 所	外来食堂 アプリコット内にて
参 加 費	100円(お茶代)



●講師：整形外科教室
教授 柿木 良介 ほか

対 象	一般市民の皆様 先着500名
参 加 費	無料 (お車でお越しの方は、受付時に無料駐車券を発券いたします)
申 込 方 法	申込み不要(直接会場にお越しください)
お 問 合 せ	近畿大学医学部 事務部 総務広報課 TEL: 072-366-0221(内線3873)

肝臓病教室

開催場所 PET 棟 3 階 大会議室

時間 16:00～17:00

肝臓病の理解を深めていただけるよう、肝臓専門医等スタッフが分かりやすくお話しします。当院受診されていない方でも興味のある方は、どなたでもお気軽にご参加ください。

12/18
(金)

テーマ アルコール性肝疾患について

2/9
(火)

テーマ 肝硬変について、栄養のはなし

3/8
(火)

テーマ メタボリックシンドロームと肝がんについて

患者支援センター

受付時間 月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:00

患者さんの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。

患者さん・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。

患者さんとの信頼関係を大切にしてお受診される皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

■患者支援センターの場所



患者支援センター

2階

●療養支援

- 在宅での看護ケアの継続
- 介護保険の申請やサービスの調整
- 訪問診療医や転院先の選定
- カンファレンス開催等

●医療相談

- 医療費制度・費用に関する相談
- 公費負担・労災・交通事故等の手続き (患者さん相談窓口併設) (肝疾患相談支援センター併設)

●医療連携

- 診療の予約
- かかりつけ医選定
- がんセカンドオピニオン等

●福祉相談

- 医療費等経済的な問題
- 社会保険・社会福祉制度について
- 心理的問題 ●社会復帰等

●その他

- ともに生きる会等
- 患者さん向け講演会事務局 (がんセンター事務) (難病患者在宅医療支援センター事務)

《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さんの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さんの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただいております。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さんからの同意をいただくことしておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さんの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。